

---

# 経済 TOPICS

No. 150

(2018年8月27日)

## 景気ウォッチング(要旨)

### I. 日本経済「成長テンポは鈍化しつつも、設備投資に支えられて緩やかな拡大が続いている」

日本経済は引続き緩やかな拡大を続けているが、輸出・生産の増勢鈍化が明確化しつつあり、年前半のGDP成長率も昨年中に比べ大幅に鈍化した。住宅投資は弱含み、個人消費も先行き不透明感から力強さに欠ける展開が続いている。一方、設備投資は足許堅調であるうえ、企業の取組姿勢が一段と積極的となっており、成長の主役と期待されている。

金融当局は7月末に金融緩和の持続性を高めるために技術的微修正を実施したが、金融市場では、長期金利がわずかに上昇しただけで、為替は110円台前半、株価は22千円台前後と落ち着いた動きが続いている。

### II. 米国経済「貿易摩擦激化にもかかわらず、減税効果等に支えられて力強い景気拡大が続いている」

米国経済は年率3%前後の高い成長を続けており、4~6月期GDPは前期の反動増もあって年率4%超の高い伸びを示した。貿易摩擦の激化にもかかわらず、昨年末に決定された大幅減税や財政支出拡大の効果が今春以降徐々に顕現化しつつあり、少なくとも目先しばらくは力強い景気拡大が続くとみられている。

こうした状況下、米国金融当局は今後も緩やかな利上げを続ける方針にあるが、金融市場では1~2年後の経済情勢展望を先読みする格好で一進一退が続いている。



京都銀行グループ

京都総合経済研究所

---